

第4回苫小牧駅周辺ビジョン策定検討委員会議事録

○事務局 ただいまより苫小牧駅周辺ビジョン策定検討委員会第4回委員会を開会させていただきます。本日は、お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

本日、磯貝委員、井上委員、山口委員が、都合により欠席、大沼委員の代理出席で金子委員が出席となっています。

それでは、会議に入らせていただきます。会議は次第に沿って進めてまいります。

座長の森教授、よろしく願いいたします。

○森座長 本日もよろしく願いいたします。

早速であります、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

1番目、苫小牧駅周辺エリアコンセプトについてということで、まず初めに、事務局より資料の説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、都市再生コンセプトプランについて、苫小牧駅周辺ビジョン策定業務進捗状況報告という資料に沿って、一通りご説明をさせていただきます。

策定中の駅周辺ビジョンの進捗状況といたしまして、先月の議会にも報告をさせていただいておりますけれども、コンセプトまでをまとめた状況になっておりますので、その途中経過も含めて報告をさせていただきます。

2ページをご覧ください。ビジョンの目的と役割ですけれども、駅周辺エリアの方向性を市内外に打ち出すために策定しており、3点ございます。1点目は、市にとっての、市が考える将来目指すべき方向性についてのメッセージとなるもの。2点目は、民間にとって、民間企業が本市のまちづくりに投資を行う際の重要な判断材料となるもの、そして、3点目は、市民あるいは市にとってもということになりますが、お互いにベクトルを合わせて将来に向かって同じ方向へ進んでいくための羅針盤となるもの、この3点をビジョンの目的と役割ということで位置づけてございます。

続いて、3ページをお願いいたします。ビジョンにおけるコンセプトをエリアコンセプトと表現をさせていただいており、こちらは第1回でご説明した都市再生コンセプトプランをベースに駅周辺エリアの具体的なビジョン策定に向けた方向性を示すもの、そして、対象エリアは苫小牧駅から市民文化ホールを中心とした範囲として考えていることを記載してございます。

4ページをお願いいたします。ビジョンの描き方をステップ1から4という形で整理をしており、ステップ1では地域特性・課題の分析、ステップ2では、民間事業者等へのヒアリングを基にしたニーズを把握、そして、ステップ3では、エリアコンセプト、方向性を定める。というところで、現在のステップ3まで進捗している状況です。今後、ステップ4で、このコンセプトをさらに深掘りをし、年度内にビジョンとしてまとめていくというような作業となっております。

5ページはこれらのスケジュールを細分化した資料となっておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

6ページをお願いいたします。現状課題、現状の把握あるいは課題の整理ですけれども、これまでの本委員会でもご議論いただいた部分でもございます。上位計画のまとめの詳細については省略させていただきますが、6ページ、それから、7ページにそれぞれ整理をさせていただきます。

また、課題の整理という部分で、8ページから15ページには交通課題に関する分析、さらに、16ページから20ページについては人流データの分析を、前回、前々回にご議論いただいた内容を掲載しております。

また、総合計画策定における市民意識調査のまとめも整理をしております、21ページ、22ページにそれぞれまとめております、例えば21ページで課題を6つほど上げておりますけれども、どれも中心市街地にとって重要な課題というように思いますし、とりわけ課題1について、旧サンプラザビルの早期解決や、課題2については公共交通の改善、さらには、課題4では防災対策等々、重要な部分が市民意識調査からも見えてくる課題となっております。

また、22ページの自由意見についても、使いやすく明るいバスターミナルですとか、従来の再開発ではない施設、歩きたくなる駅前、さらには医療機関の充実といった自由意見もございまして、これらは今後反映すべき課題が抽出されているものと認識をしております。

続いて、23ページ、それから、24ページをご覧いただきたいと思いますが、これまで民間事業者へのヒアリング、市内外の12社に実施をしており、その結果をまとめております。多くの意見として、やはり苦小牧駅南口の評価は、非常に高い、高評価を受けております。ただ、駅前立地における新たな交通政策は重要という条件付での高評価がありました。それに伴って、事業参画の可否でも、条件次第での事業への参画も可能という多くの意見はいただいており、その条件としては、市のサポート、様々な投資とか官民の連携とか、様々な手法がありますけれども、そういった行政側のサポートあるいは王子製紙との連携という点が事業者の皆様からも条件提示があったところでございます。

また、導入可能と思われる機能としては、様々な専門の事業者に伺っているということもあり、ホテルや住宅、商業、それから公共施設、駐車場等があり、相対的に面的な活性化を視野に入れた計画が必要という声と17万都市として身の丈に合った適正なボリュームの開発を望むという意見が出されているところでございます。

これらを踏まえまして、25ページにエリアコンセプトとして、表題としては「「学び、気づき」と「暮らし」が会う街。」というふうに表現をしております、内容としては、誰もが主役になれ、共にまちをつくる、主役になれるまち、そして、共にまちをつくり、創造的な学び、気づきを通して、地域課題を解決して地域の活性化を図る、様々な文化、学習、スポーツ、遊び等を通してやはり駅前、特にまちの顔として、苦小牧を表現できる

場所あるいは苦小牧を知ることができる場所として、市民にとっても、それから、市外からの来訪者にとっても、それらの機能や目的地になればいいという考え方の下に、コンセプトしてまとめてございます。

26ページ以降は、これまで事業者含め、様々なご意見をいただいた構成要素を全てとっていいぐらい、列挙させていただいております。先ほどのコンセプトに合うように、これらの構成要素をどのように整理、抽出していくかという部分が今後の作業になろうかと思えますけれども、要素ごとにまとめたもの、それから、27ページには、ゾーニングを一定程度して、そのゾーンの中にどういう機能を置くべきかという整理をさせていただいております。

この26ページ、27ページについては、全体的なバランスを取ったA案、32ページ、33ページにつきましては、少し苦小牧らしさを前面に出した打ち出したB案として整理をしております。それぞれの構成要素の中身を含めて、どういったゾーニングをしていくのが、苦小牧らしい中心市街地になるかという検討が今後必要になると思っております。

その中で、構成要素を幾つかご紹介をさせていただきたいと思えます。

28ページにお戻り願います。1つ、駅前シンボルゾーンで、やはり一番の課題、注目の場所である駅前シンボルビルを象徴的な施設として、例えばゼロカーボンあるいは防災機能とか、次世代技術を活用することによって、この建築物自体が目的地ともなり得るという機能は考えられるというところです。

また、南北回遊ゾーンでは、これまでも何度かお話をしているとおり、駅南北の連携は非常に重要な要素として捉えておりますので、この通路がいいのかは別にして、南北を連動させるような機能は重要という認識であります。

また、交通・モビリティゾーンや交通の結節点として、交通広場の整理は必須かなと思っております。JR、バス、タクシー、それから、一般車も含めて整理する必要があると思えますし、また、本委員会で意見もあった自家用車需要に対応するためには、大型の駐車場の機能も必須になろうと思っております。

29ページをお願いいたします。体験・気づきゾーン、それから、多世代交流学びゾーンで、公園機能を上げております。一つはキャンプフィールドの設置、今、ビジネスキャンプなどといった要素が注目されております。そういったことから展開する機能としていいのではないかと。そこに併せて防災機能、防災拠点としての機能を複合的な役割として持つことによって、この公園機能の位置づけというところが重要なものになろうかなと思えます。

また、駅前のサテライトキャンパスも、他市でもございますとおり、やはり若者が集う場所、そして、学ぶ場所ということで相乗効果も含めて、非常にここはにぎわいという部分では期待できる機能かなと思えます。

続いて、30ページをお願いします。ウォークブルゾーンとして、ストリートテラスによって、歩いて楽しい空間づくりができます。また、マイクロモビリティなどによって、

移動という部分、委員会の議論もさせていただきましたが、移動を促す機能としては、今後の実証実験からでも、取り入れていい分野と捉えております。

続いて、31ページになります。健康・福祉ゾーンですが、学研HDさんからも種々ご紹介をいただいた部分でもありますが、多世代の交流住宅あるいは医療ヘルスケア施設等々、健康、福祉、医療、介護など集積させることが、今の時代として必要な部分と思いますし、ゾーン形成も一定程度可能な範囲と捉えております。

それから、全体の回遊として、バスターミナル機能の充実や新たなモビリティ、自動運転、Ma a Sの展開といった様々な移動手段を考えることによって、この回遊性を助長させることができるのではと思います。

最後、34ページになります。アクティブフィールドゾーンですが、産学連携拠点を一つ参考に上げてございます。既に本市にあるC-base、ココトマという機能に加えて、先ほども上げたサテライトキャンパスといった機能を組み合わせることによりまして、若者同士あるいはビジネスマッチング等々、新たな交流の機会が創出できる期待が持てるものとなります。

また、駅前シンボルゾーンのサイエンスパークですが、やはり本市はものづくりのまちとしまして、紙パルプ、石油精製、自動車産業などといったものづくり産業のまちを表現でき、また、そこでは学習、あるいは交流もできるといった複層的な機能があれば、様々な効果も期待できると思いますし、今、一つ課題で上げております科学センターの機能としても考えられるのではないかなというふうに思います。

その他も様々な機能として上げておりますけれども、今後、ビジョンの整理もそうですし、次年度の実証事業も含めて、一つでもこういった機能を実現に向けて近づけることが、このゾーニングとかビジョンの実現に向かって進んでいけると思いますし、そういった視点も含めて事業展開を今後考えてまいりたいというふうに思います。

説明は以上になります。

○森座長 ありがとうございます。それでは、今、ご説明いただいたエリアコンセプト案のA案、B案について、皆様のご意見、ご質問等をいただきたいと思います。

荒井委員お願いします。

○荒井委員 これまでの検討委員会の中で、各委員さんから出された意見やご説明をいただいた中のアイデアをすごく的確に盛り込んでいるので、本当に実現したら、子供からお年を召した方ですとか、多様な方が楽しんだり生活するのにとても居心地のいい空間になるなという期待が持てるプランやゾーニングだなというように、第一印象としては感じました。これを実現に向けてどうアイデアを出したり、市民としての関わりを持っていったらいいんだろうかなというところを考えていたところでした。

○森座長 ありがとうございます。その辺りは、後ほどの実証実験のほうなんか絡んでくると思いますので、またコメントお願いいたします。

それでは、石森委員、お願いします。

○石森委員 よくできてると思います。ただ、例えば学生をまちの中に呼び込む、単にそういうものをつくれれば来るということではないと思うので、そのエリアとそういう学校や学校の行事をどのように組み合わせるか、パイを増やしていくか。一つのもので魅力的なものにつけるという手段もあるんですけども、それはモビリティも含めていろいろな手段があるとは思いますが、こことほかのところをどういうふうに関連して魅力つけていくかというの、それがないと恐らくここだけがよくてもなかなかうまくいかないのでは。

それから、もう一つ大事なのは、人を集めなきゃいけないと思うと住居ですね。学研HDさんの事業の説明もそうだと思いますが、人を呼び込んでくる、そういうマーケティング的な発想でのまちづくり、これは次の段階だと思いますけれども、今はいろんなアイデアを持ってますけれども、それをどういうふうによく走らすかというのが、これからの作業に必要なという感想を持ちました。

○森座長 ありがとうございます。そうですね、学生もそんなに単純ではないので、スタバを置けば絶対来るかというそういうわけでもない、その辺り、すごく大事ななと思います。

今、学生のお話が出たので北大生の話にはなるんですけども、北大は比較的留学生が多いんですが、必ずしも札幌の北大キャンパスの近くに住んでいるわけではなくて、札幌近辺だと家賃が高かったりといった価格的な要素もあって、意図的に旭川の辺りまで離れて住んでいる留学生もいます。大学院の修士課程の後半や博士課程になると、しょっちゅうキャンパスに来ることもなくなってきました。苫小牧近辺の学生さんというのも考えられるんですが、もうちょっと広域にインターナショナルな感じでの設計もあり得るかなと思います。

○石森委員 今、先生のお話がありましたように、日本人だけだとなかなか難しい。

○森座長 そうなんです。

○石森委員 ですから、国際的なまちづくりもターゲットにしてると思うんですが、そういう意味では、海外の人たちがまちの中よりも緑の多い、避暑地のリゾートっぽいほうがいいとか、いろいろあると思うんですけどね。そういう要望を細かに分析したり、仕掛けをつくるのが必要じゃないかなと思うんですけどね。

例えば、このゾーニングの中にキャンプ場をつくったらどうかという話ですね。東のほうは大分宅地造成が進んでいて、住宅だけの分譲じゃなくて、何か機能を持たせて、最近、ちょっと広い土地を我が社も分譲していて、大きい土地の例えば60坪ぐらいの広さの土地を600万円程度の価格帯で販売している中、120坪の土地を売り出したら、あっという間に売れてしまって、平家でガレージを造るようなぜいたくなうちが、建ってくるということもあるんですね。

○森座長 なるほど。

○石森委員 どこがいいというのはなかなか難しいと思うんですけども、いろんな仕掛け

をつくって、苫小牧信金さんの事業にも関わってくると思いますけど、何かそういうものが次には必要になるかと。

○森座長 ありがとうございます。そういう意味でいきますと、例えばこのA案、B案で多世代交流ってありますけども、国際交流みたいなキーワードも積極的に考えていいんじゃないかなというふうに思っております。ありがとうございます。

それでは、金子委員、お願いいたします。

○金子委員（代理） 私、小学校、中学校も、学生時代からずっと苫小牧にいたので、過去からの流れからいくと、僕も高校時代、大体昭和の末期ぐらいはこの中心街に学生がたくさんいたんです。何でいたかという、中心街にお店がたくさんあったっていうのは、確かにあるんですね。ダイエーや富士ビルの中にそこでCDショップがあって、そういうところに学生がたまっていました。なぜたまっていたのか改めて考えると、あの当時、バスで通っている人は一度バスターミナルに来なきゃいけないかったです。なので、必ずバスターミナルで一回バスから降りる必要がある。じゃあ、西のほうから東のほうとかに行こうとすると、一回バスターミナルでバスをおりて、駅北口のほうに回って乗り換えするとかいうことがあったんですけど、途中で市営バスに直接行けるようになった。だからバスターミナルの機能があまりターミナルというような機能でなくなって、一つの停車駅になってしまった時期があって、どうもそこから、あまり人が集まらなくなっちゃったんだなと個人的には思っているんです。

今回のこのエリアコンセプトでも交通広場が盛り込まれていたんで、学生って自転車で動くかバスで動くか、苫小牧は横に広いんで、西のほうから東のほうの学校へ行く子供もいるしその逆もいます。そのときに、すつと行けるんじゃないくて、不便にはなるんですけど苫小牧駅で一回降りなきゃ駄目、待ってなきゃいけないという状況になるとそこにたむろじゃないけど、そういったことが起きる。そういう要素があると若い人が集まりやすい状況になってくるのかなと当時のバスの状況を見るとそう思うんです。当時は本当に完全にバスターミナルで東、西の乗り換えがある状況だった。

○森座長 ありがとうございます。今、大事なお話をされていて、私の研究室でも建築側からの交通の研究とか調査を行うと近年だとコミュニティーバスを運行している自治体が増えていきますね。そしてどんどんどんどん人口が減って、深刻になっていくと、循環するバスではなくてオンデマンド型になって、最終的にタクシー型になるんです。それを何とか踏ん張るといふか、回避することが大事だなと思っていて、タクシーのような目的型の移動サービスになってくると、その1か所にしか行かなくなるということがあって、今おっしゃっていたことはすごく大事でまちのにぎわいや人がいるなという雰囲気というのは、ちらほらと面的に人がいる状態というのがすごく大事だと思うんですね。

結局、利便性だとか、買物をいかに効率よくやるかということを見ると、まちなかの一つに全部集めてしまって、そこに自宅から全員がオンデマンドで通うみたいな話になりがちですが、それが本当にまちとして豊かなのかということ、僕は違うなと思っていて、今

の話というのはすごく大事で利便性追求ばかりすることが、本当に楽しみになるのかというところは、ぜひともこのJRがあったり、バスがあったり、車があるときのつなぎ方であるとか、滞在、乗り継ぎのはざまみたいなところをイメージしていけたらなど。ありがとうございます。

千時丸委員お願いいたします。

○千時丸委員 最初の学校、大学やサテライトキャンパスというのも非常に面白いなと思うんですけども、苫小牧に向けた学部、特に若い学生が興味ありそうな学部がなければ、なかなかここに来てくれる学生も少ないのかなというところも感じてはいます。

駅前にあるこの公園が、本当にできるとわくわくするようなイベントなどがいろいろできるのかなと思いました。交通の件に関して、今、郊外から駅まで来る、中心部から郊外に出るという交通機関の時間帯ですが今、8時、9時ぐらいになると交通の便が非常に悪くなるという点もあるので、夜間の時間帯について、どのように考えているのか。まちなかに来る、まちなかから帰る時間帯ですね、この交通の便が非常に悪いというのが重要だと思っています。高齢者については、乗り継ぎや乗換えが非常に難しい。何とか1本で行って1本で帰れるというところが、今のやっぱり高齢者には必要なのかなというところがある。

外国人についても考えていたんですけども、外国人が中心部に来たら、ここに何があるというのが理解できる標識や画面でタッチしたら情報が出てくるといった外国人に優しいところが中心部にはないのかなと考えてました。

今は、苫小牧に外国人が結構入ってきている状況にあるんですけども、今住んでいる地域から中心部に来たり、行きたい場所に、この方々が本当に行けてるのかなとか、これから多文化共生の視点でも考える必要があると思うんですけども、中心部にそういった優しい取組があると、中心部も栄えてくるのかなと。まちの中心部としてそういった姿になっていくといいのかなと感じています。

○森座長 ありがとうございます。私のほうからは、モビリティの話が出てきたので、モビリティはこれから科学技術がすごく反映されてくるジャンルだと思うんです。そういったときに、どうしても走っているバスとバス停のイメージになりがちですけども、そこをどういうモビリティでつないでいくのかというのを、苫小牧だからこそ、技術を先取りして目標を定めていってほしいなという希望があります。

モビリティも移動手段ということだけじゃなくて、これまでの議論にも出てきましたけども、移動しているモビリティの例えば車内であるとか、その空間で何ができるのかということも含めてチャレンジしていくのが、やっぱりいいかなと思いますね。

先日、ニュースでコープさっぽろさんのトドックでATMが使えるようになったという話があって、あれはすごく大きい。

○事務局 苫小牧信金さんとの取り組み。

○森座長 言われてみれば単純なんだけれども、物すごく大きい話だなと思うんですよね。

そういったところも生かしながら、チャレンジしていただきたいと思います。

私のほうから、ちょっと別の視点で2点コメントをさせていただきます。課題のところでも出てくるんですけども、住宅ですね、先ほどもコメントいただきましたが、住宅で、駅前にシンボルビルがありますけども、駅前マンションタワーということにかなり否定的なところがあって、以前も発言したと思うんですけども、事業収益的、モデル的にはマンション建ててしまったほうが単純で割と分かりやすく解決するんだと思うんですけども、地域環境であったり、社会環境を考えたときに、それがいいのかという点は丁寧に考える必要があると思っています。今回、苫小牧市がもし駅周辺エリアで何らかの仕掛けをしていくとなると、行政が必ず関わってくる。行政が関わるということは、公共事業になって税金が投入されるので、その恩恵が特定の富裕層といいますかお金持ちの方々にその恩恵がいくというのは、やはり考え方としておかしい話になってくると思うんですよ。これは、海外だったら、もう何十年も前から言われてることなんですけれども、日本は住宅とか住居地域を開発するときに、あまり制約がないんですよ。民間任せのところがある。資本主義の最たるアメリカでさえ、開発するときに、アフォーダブル・ハウジング（低廉住宅、公営住宅）の考え方を入れている。たとえば100戸の住宅に対して30%は、中低所得の方が入れるようにその戸数を供給しなさいねというのが、自治体や州によって、義務として決まっているんです。日本はそれが全くないので、採算が取れるようにするためにはどうするかという視点になってしまう。

例えば苫小牧駅前あるいは苫小牧駅周辺に住居を持たせるにしても、苫小牧市として、民間と協力する中で、例えば住居の価格帯や公営住宅組み合わせるだとか、そういった形でソーシャルミックス。様々な社会的属性や収入的属性が混在するミックスハウジングというのを積極的に考えていくのが重要なんじゃないかなと思います。それが1つ目ですね。

もう一つ、A案、B案なんですけれども、いずれもスタディーとして、たたき台としていいなと思っています。個人的には苫小牧らしさをもっともっと出していただきたいなとは思っていますけれども、ちょっとこれも学問の立場としてやや批判的なコメントになるかもしれないですけどもまちの構造をゾーニングという形、ゾーンとして捉えるというのは物すごく昭和的なアプローチなんですよ。こういうふうは何々ゾーン、何々ゾーン、何々ゾーンあるいは何々軸みたいなことを言うと分かりやすく、一見、整理されて計画できているように思うんですけども、私たちの生活ってそんなに切り分けられるものではないんですね。

さらに言うと、このゾーンを分けるときに、例えば10キロ四方のエリアを5つのゾーンで分けるのと1キロ四方のエリアを5つのゾーンで分けるというのは、全然意味が違う。今回は分かりやすいコンセプトゾーニングでこうされているんですけども、私の感覚でいくと1キロぐらいの範囲内でゾーンをつくっていくことに、それほど大きな意味があるのかというようところは、ちょっと問題提起しときたいなと思います。

もっと言うと、私たちが例えば外国に行ったり、昔のまちを訪れたり、ヨーロッパの昔

のまちを訪れたり、大抵楽しいところというのはぐちゃぐちゃとしてるところが楽しくて、私の建築計画、都市計画の分野では、この用途純化ですね、都市計画で言う用途地域みたいなものというのは、もう今のこの15年、20年ぐらい、かなり批判的な対象になっている、この用途を分けていくのではなくて、いかに用途をミックスするのかということチャレンジしていただきたい。

そうしたときに、A案、B案のこの絵もコンセプトとしては結構かと思うんですけども、こういうふうな絵を描くと、黄色の真ん中だとか緑の真ん中だとか紫の真ん中をどうしようかなみたいな考えになるんですね。もう自然とそう考えるんですけども、大事なのは、緑と黄色の重なり合ってるところ、青とオレンジが重なり合ってるところ、この色の真ん中ではなくて、紫、オレンジの重なってるところ、ブルー、赤が重なってるところ、こういうところをどうするのかというのがすごく大事になってくるんですね。そうしないと、結局、あそこにあの用があって、この用があってという、ピンポイントの目的はできるんですけども、つながってこないことになるので、この絵を描くときも、できればこの重なるところがどの辺の土地になるのかというのを少タイメージしていただいて、理想的なこの重なるところに仕掛けが投入されていくというような、実証実験も含めてですけども、形を考えていくとより効果的になってくるんじゃないかなと思います。その辺りを、ぜひご検討いただきたいなと思うところです。

○事務局 本日、欠席の井上委員と磯貝委員からも、資料1に関する意見をいただいておりますので、ご紹介をさせていただきたいと思います。

まず、井上委員からです。これまでの議論にもありましたが、駅前のあまり階層が高くない場所に、それぞれコミュニティースペースですとかショップ、カフェ、立ち飲み交流といった機能を置くのがいいのではないかという意見、それから、高齢者への対応として、先ほど石森委員からもご意見いただいたような移住促進というところで、中心部の住居、それから、買物等、生活環境を整備する、あるいは医療という面で中心部に王子病院がありますので、病院からの流れをつくるべきではないかというご意見。それから、公共交通に関しましては、東西のラインに例えば自動運転のバスですとか、拠点を設定したコミュニティバスの運行というところも考えられるのではないかというご意見です。

それから、磯貝委員から全体的なエリアコンセプトの案としては非常に魅力を感じるという意見をいただいています。ただ、このDAOという表現に関しては、やはりまだ苦小牧には早いだらうと、あまりこういうフレーズを表に出してしまうと、誤った捉え方をしてしまうとか、ちょっと違う方向に進んでしまうという危険性があるので、まずは少数から始めるとか勉強会から始めるとか、そういったスロースタートでしっかりと地に足をつけて進めていくべきではないかというようなご意見をいただいております。以上です。

○森座長 DAOはまだ一般に認知された言葉ではないので、分かりやすくしたほうがいいなという意見ですけども、この辺りご検討いただきたいですね。ありがとうございます。

それでは、次の資料をベースに行きたいと思います。事務局より、実証実験についてのご説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、次の第4回検討委員会資料のほうに移らせていただきたいと思います。

こちらについては、このビジョン策定後の特にソフト事業の進め方の案について、幾つかご紹介をするような内容になっておりますので、ご覧いただきたいと思います。

2ページをお願いします。まず、今後の進め方というところで大きく整理をさせていただいておりますけれども、先ほどご説明したエリアコンセプトというところで、しっかりと今後の方向性、目標というものを定めながら、やはりハード、それから、ソフトという両面をしっかりと進めていくことが今後必要になるだろうと。これまでの取組の中でハードという部分が進んでこなかったというところもありますので、これまでやってきたことを生かしつつも、しっかりと両面を進めていくという考え方を整理しております。

3ページ、お願いいたします。特にソフトの部分の進め方について、シナリオですとか構成というところを整理しておりますけれども、今後、進めるに当たっても、先ほど森先生からもご意見いただいたとおり、しっかりと将来を見据えたものとなるような実証事業を展開すべきではないかという、我々も考えているところであります。

それから、5ページをお願いいたします。まちなか再生総合プロジェクト、CAPをこれまで12年間実施をしてきまして、今後より展開をしていきたいというふうに考えております。

特に先ほどのエリアコンセプトによる方向性をしっかりと明確にすることによって、より効果的な活動を促していきたいというふうに考えておりますし、6ページには、いろいろな団体ですとか商店街、市等が主体になって、ソフト事業として展開してきた部分もありますし、今後の中心部の重要なプレーヤーとして、今後も生かしていくというところでは、なかなか今、個別にそれぞれ動いている部分もあるものですから、うまくつなぎ合わせながら、相乗効果を図るような取組が必要という認識となっております。

7ページをお願いします。このエリアプラットフォームと書いてありますけれども、こういった受皿を一つつくることは、今後の展開には必要でないかなという認識で、これまでの多様な取組あるいは新たな事業の受皿として、連携し相乗効果を図るという意味もありますし、8ページにはその進め方のフロー、活動内容の具体的事例ということを載せておりますけれども、次年度について、いきなりプラットフォームをつくるということにはならないと思いますけれども、まずはその構築に向けた関係者による検討、協議等、できることから始めていきたいなというふうに考えております。

9ページお願いします。実証事業案として、自動運転のご紹介であります。駅周辺の交通の利便性の向上、新時代の交通システムを見据えた実証事業として捉えておりまして、この写真の右側の写真、冬の雪の写真になりますけれども、道東の上士幌町のほうで実際に実証事業を行っているBOLDLYという事業者さんからのご提案をいただいております。

す。

既に12ページに、例えばこのエリアで自動運転を走らせるとしたら、こんなルートはいいのではといったご提案をいただいているところでもあります。これは時期もそうですし、ルートもそうなんですけれども、どういった形で活用できるかといった形態も含めて実証事業としてやっていくべきかという検討は必要かと思います。同時に当市で実施しているスマートシティの取組というところとも連動する必要がありますので、それらも踏まえて、実施に向けた検討をしていきたいと思っております。

最後は3つほどの実証事業案の検討という中身になります。既に12月から2月にかけて、駅前でイルミネーション事業を実施して今年で5年目になります。まちを明るくというコンセプトで、様々な仕掛けをしながら実施しております。その後の大きな展開として、将来のまちのイメージがある程度固まった段階で、将来像をプロジェクションマッピングやメタバースといった技術を使って、新たな拠点やシンボリストリートをイメージするような単純にまちを明るくするだけではなく、将来像をイメージ出来るような仕掛けというのも実際にご提案もいただいているので、いずれかの時点では実施するのも検討材料としてはいいのではと思います。

後半の自動運転やイルミネーション事業の発展については費用もかかる部分もありますので、十分な検証、検討は必要かと思っておりますけれども、まず、次年度以降についてはハードはもとより、ソフトについても継続すべきもの今後の展開に必要なもの、あるいは将来をイメージできるものなど、様々な視点から実証事業として積み重ねていきたいというような考え方を持っております。

説明は以上です。

○森座長 ありがとうございます。千寺丸委員、いかがでしょうか。

○千寺丸委員 自動運転に関することからですと、実際にこれが本当に運行するという地域性ですよね、中心部にこれが走るときに、どのぐらいのスピードで走れるのかとか、いろいろと出どころが気になってはいるんですけども、苫小牧以外のまちだと、今だとまだまだアナログ的な活動でやっているまちがほとんどだと思うんですね。例えば乗合タクシーだとかいうところが非常に多いかなというふうに思っています。

なので、こういうものが市街地を走るのには、非常に僕たちにとっては夢があるかなと思っていてこれがどう進んでいくのかは楽しみかなというふうに思います。

あとはナイトウオークのイメージが非常によく、資料を頂いたときにすごいきれいだなと思っていたんですけども、僕たちが子供のときは、子供の中でも例えば七夕祭りで1本ろうそく持って、ちょうちん持って歩いているような光景って僕、錦町出身なので、そういう光景を見かけたんですが、今はやっぱり子供たちというか、学生も含めて、若い子供たちが中心部を歩くという姿がなかなかないので、何かこういう若い子供たちが中心となることができるようなイベント型の歩くようなイベントが頻繁にあると、ちょっと変わってくるのかなと。

メタバースについては、僕はまだどういう方向に進んでいくのかというのがちょっと想像つかないんですけども、近い将来こういう空間が現れて、実物とこういう空間の中でのそういう文化、世界が生まれてくると思ってますので、これをどのように苫小牧でやっていくのかという、苫小牧の企業としてどういう企業が参加できるのかとか、どういう空間になっていくのかというところは、これから楽しみにしたいなと思いますけども、まだ頭の中で、僕は苫小牧でこれができるのかというところのイメージがついていないような感じですか。すみません、以上です。

○森座長 ありがとうございます。今の関連で、イルミネーションとかの話、ちょっと皆様に教えていただきたいんですけども、いわゆるタウンウォーク的なイベント、取組んで苫小牧でほかにどんなものをされているんですか。日本は少ないと思うんですけども、ヨーロッパであるとか、私の知ってるオーストラリアやアメリカだと、割と小さなローカルなまちでも、ウィークエンドにタウンウォークというのを月1回とか2週間に1回やってるんですよね。何の変哲もないことをやって、まち歩きで、でも、そのときに小さなお子さんを連れてご家族であるとかお年寄りの方が一緒に散歩をして、今まで歩いたことのないところを歩いて、ちょっとまちに詳しい人が、実はこの場所はかつてこんなのだったよみたいな、ちょっとしたネタみたいなのを話していくと。観光客に向けてとか、イベント的に目立つものというよりは、地域の方々のコミュニケーションの場であったり、自分のまちへの愛着を高めていくとか、そういうような趣旨ですごく地味にされているんですよね。

今、このナイトウォークって、いわゆる若い方々の何々映えするみたいなのをせんとして、すごく人気があって、これはこれでメッセージ性はあると思うんですけども、例えば単純にモーニングウォークであるとかウィークエンドウォークであるとか、参加される方もお年寄りを視野に入れるとか、お子様連れの親子ウォークだとか、何かそういうような形でちょっと、これも苫小牧としてのアイデアを入れていくということ。例えば王子製紙さんの土地が多いといった歴史がありますけども、今の子供たちがそのまちの歴史ってどれほど知ってるのかというと、学校でもそんなに習わなかったりする。それを、例えばおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に歩いて、昔、ここにこんなことがあってねみたいな話をやってみるとか、このウォークブルとか、エリアを言っていることもあるので、このまち歩きみたいなプログラムをもうちょっと独自性を出してやってみてもいいんじゃないかなと、そういうのを今、お話を聞いてて思ったところです。

○石森委員 ないね、そういうのね。せいぜい、以前やっていたJRが降りた人にこういうコースがあるよって教えるぐらいなんですね。私も先生と同感です。

例えばまちを知るとか、私、今、札幌に週末住んでますけど、毎土曜日、日曜日、ラジオ体操で神宮を回って、それが今は会員だけで150人ぐらいになってるんですね。そういうのがいっぱいいろんなところにあるんですけど、やっぱり寒いせいか、冬が途切れるせいか、だけど、札幌のラジオ体操は1月1日だけ休みで、あと毎日やっているんで、で

きないことはないと思うんですよね。

だから、やっぱり先生おっしゃったように、まちを知るとか自慢をするとか、意外なところを見るとか、そういうのを入り交じらないと、新しいものだけで本当にやれるんだろうかって気がしましたね。

○森座長 そんなに毎回、毎回すごく人数集まらなくてもいいと思うんです。数名でもいいので、何か持続するとか、まち歩きであったり、協力してくれる企業さんとかがいれば、その会社の裏を見せてもらうだとか、そういうことで、ウォーキングのプログラムをいろいろ工夫するというのはいいかもしれないですね。

○石森委員 そこが一種の仕事かもしれませんね。

○森座長 ぜひ考えていただけるといいんじゃないかなと思いました。ありがとうございます。

金子委員、いかがですか。

○金子委員（代理） 今のウォーキングの話ですけど実は私ども苦小牧信金でやってまして、最近はコロナ禍なので全然開催できていないんですけど、平成29年ぐらいのときから、苦小牧駅周辺ですね、駅周辺で健康維持を含めてウォーキングをやりたいというのを月1回開催しておりました。冬の寒い時期はやらないので、5月ぐらいから11月ぐらいまでで月1回ぐらいで会員を募って実施してました。コースは、資料6ページのCAPPのエリアぐらいの範囲で。ここを大体4キロから5キロぐらい、1時間程度で回っていきましょうと。毎回、コースを決めて実施してきたんですが、ネタが尽きてきます。そういったこともあって参加者が最初のうちは職員も含めて参加者が三、四十人ぐらいいたんですけど、だんだんやっぱり減ってきて、直近では参加者が十五、六人になってしまっていたんですけど、それでも先生おっしゃるのようにやるということが重要だということであればもう一度考えてみたいですね。

あとは、参加者は高齢者の方が多いですけど、高齢者の方でも昔のまちを知っている方もいるし、そうでない方もいらっしゃるんで、例えば苦小牧の海岸のほうに、昔の遊郭なんかがあって、そういうところに行ったときに、ここ、実はこうなんです、だから、道路広いですよみたいな話をすると、ああ、そうなんだみたいな話をしていただけるという話で、そういうネタもこっちは仕込みながらやってるんですけど、なかなか宣伝が難しく来年にやろう、また、コロナ、あれなんでやろうということにはなっているにはいるんですけど、そういう活動は地味にしています。

○森座長 いや、すごく大事なことですね。エリアプラットフォームって、物すごく大事だと思うんですよね。これ、ぜひやっぱり基盤としてつくっていくことが必要かなと思っているんですけども、様々な方の工夫が相乗りをするであったり、共有されていくみたいな形ができていくと、随分変わってくるかな。ネタ切れとかもそうだろうなと思うんですよね。

ただ、話題提供する人や一緒に歩く人の人材が替わってくると、ネタも多分変わってく

るかなと思うので、今までやってきた経験を生かして、頻度を意図的に調節するとか、ぜひともこれは発展的に検討いただきたいと今思ったところですね。

あと、ラジオ体操の話で、僕の一番下の子供が今、小学校3年生なんですけども、すごく現金なもので、夏休みのラジオ体操を最初の1日、2日は気合を入れて行くんですけども、挫折するんですよ。挫折して、最終日だけ行くんですよ。お菓子がもらえるから。変な話ですけども、子供ってやっぱりそんなもんだと思うので、例えば地元の企業さんに協力いただいて、ちょっとしたお菓子ぐらいを、これに参加したらもらえますよといった形で、そのイベントが例えば月に1回とか2か月に1回、お菓子がもらえるイベントみたいなんがある、そんなでも全然変わってくるかなというような気がしますので、ぜひぜひ今後考えていっていただきたいなと思います。

続いて、お願いします。

○石森委員 もう少し苫小牧信金さんのPRさせていただきたいんですが、苫小牧信金さんで、例えばいろんな地域で地域を紹介する本を作っていますね、シリーズで。あれも相当考えられていて、川とか歴史も交えた地域を題材にすると、意外と昔はこの施設が何のために造られたんだということまで理解できます、あれ、何巻ありますか。

○金子委員（代理） 今、30巻ですね。

○石森委員 そうですか、結構面白い内容のものがああります。苫小牧港開発も港湾のウォークを子供たち対象にやってるんです。やっぱりお土産つきで、それで結構集まるという。だから、そういうのも地味ですけども、長続きしそうな、それから、歴史を知ったり、地域を自慢する一つの材料になるから、これは何か中に入れ込んでやったほうがいいんじゃないかと思いますね。

○森座長 そうですね。

○石森委員 提案の実証実験なんですけども、いろいろ考えてるなと思ったんですけども、やっぱり自動車のまちだから、自動運転の一番進んでいるところを、話題づくりも含めて、それはやってもいいかなという思いと、じゃあ、冬にどれが一番適する事業かなと思うと、やっぱりココトマメタバースや屋内型の公園でもいいんですけど、何かそういうような冬の実証事業みたいなもの、もちろん自動運転も冬も関係してきますけれども、それから、プロジェクションマッピングというの、これ、夏でも冬でもできますよね。夏型と冬型と季節を少し考慮に入れて、実証実験の採択をしてもらいたいんじゃないかなと思います。

それと、先生がおっしゃった、やっぱり生活に密着したというか、地域に密着した実証事業として、先ほどのウォークイベントをぜひ取り上げてもらったらなと思います。以上です。

○森座長 ありがとうございます。自動運転の話で、前、お話ししたかもしれないですけど、私、この上士幌町さんは一番お付き合いの長いまちで、もう10年以上で、この実証実験になって自動運転なんですけれども、十数年前に町なかはどういう公共施設をどのように集約して配置していくということをランドデザイン、どこに何をみたいなのを私が

提案書かせていただいて、そのときに、こういうルートで将来的に自動運転のコミュニティーバスが回るということを、その時点で盛り込んであるわけですよね。実証実験なので、うまく動くかどうかというので、いいんだろうと思うんですけども、どこに何が来るのかというのとどういうモビリティがそこにリンクするのかというのは、やっぱり並行して考えていかないと、相乗効果が出てこないところがあるんですよね。なので、ルート提案していただいているのはすごく現実的な点でできそうなところという話だと思うんですけども、将来的にこういうエリアをこういうふうにつくっていくときに、ここには自動運転が来てほしいなというところはやはり狙いを定めて、このルートを押さえていっていただきたいなというのを感じます。

今、上士幌、実証実験、数年やって、来年ぐらいからほぼほぼ定常的に動かす状態になっていくんですけども、まだ、オペレーターつきで、誰かが前に座ってる状態で回す。ルートも5,000人のまちで、苫小牧よりも田舎なので、そんなに交通量がないので、やっぱり状況が違うかなと思うんですね。ただ、それなりに除雪がされていて雪があんまりなくてという状態であれば、普通に動くことができる。ポイントは一般の車と歩行者と自動運転が来たときに、自動運転はやっぱり速度が遅いので、ここも意図的にウォークアブルなエリアにするために、ほかの車両も速度を落としてもらうという前提で、自動運転バスが回らないといけないかなと。それが、時代的にはそっちのほうがいい話だとなるので、その辺りを意識してやっていっていただきたいなと思ったところですね。ありがとうございます。

なかなか好評ですね、年寄りも含めて、ゆっくり走って怖さがないというのと、あと、ぐるぐるぐるぐる一定程度同じところを回ってるので、割と乗り降りがしやすいというので、好評は好評だと思います。お金のことも含めてですけども、今後、考えていただきたいなと思います。

それでは、荒井委員、お願いします。

○荒井委員 ありがとうございます。IPPPOという子育て中のお母さん方の団体で、過去にまち歩きの企画を1度やったことがありまして、そのときはココトマを出発して、足湯、苫小牧信金さんの足湯のあるエリアまで真っすぐ、ゆっくりベビーカーを押しながら、子供の手を引きながら歩くという企画を実施したことがありました。そのときも、こんなところにこんなお店があったんだねとか、いろいろ見て、子供の目線だったり、お母さんたちの目線でゆっくり歩きながら楽しめたというような、参加した方の意見があったなということを思い出しました。ゆっくり歩きながら、どろかんさんでランチを食べて帰るという催しだったんですけど、そういった何かウォーキングという健康維持を目的として参加される方、もちろん距離をたくさん長く歩いて、健康を促進というような目的を持って参加される方も多いと思うんですけども、そういった食べながら歩けるとか、子供の手を引きながら歩けるとか、いろいろなメニューを紹介しながらできると、また面白いなというふうに感じました。

あと、先日、9月18日にMIRAI FESTのイベントがあったときに、私も駅前でモザイクマーケットというマルシェをやったんですけれども、そのときに、苫小牧駅前からシャトルバスがMIRAI FESTの会場に行くルートがあったので、シャトルバスのお客さんが乗ってきてくれたらいいなと思っていたんですけど、バスを利用している方の姿があまり見られなくて、この運行ルートを見たときに、どんな目的でどんな方が乗降されるかなというふうなことを、そのときの印象から考えまして、やっぱり居住する方が多い地域と何か病院や市役所とか図書館というような目的を持ったルートにしないと、ただ、運行しても乗り降りする人はいないんじゃないかなと。目新しくて最初は乗るかもしれないけれど、このルートだったら学生さんが利用しないし、イオンバスに乗っていらっしゃるかなというような、そんな印象があったので、ルート設定についても一度、何か検証していただけたらいいかなと思ったりしました。

ココトマメタバースとかもすごく最先端の技術などを使って、何かこういったオンラインとか、デジタルとかということを使うと、ここにももちろん足を運んでいただきたいのはあるんですけれども、ちょっと体が不自由で足を運べない人でも一緒に体感できるとか、オンライン等、リアルで交流できるとか、そういったことにもつながったらいいなというふうに思っていました。市民だけではなくて市外の方とか、全国とか海外とか、そんな方も何か興味を持っていただけるような仕掛けになったら面白いなというふうに思いました。以上です。

○森座長 ありがとうございます。今ちょっとお聞きして、二、三点コメントさせていただきたい。

苫小牧市さんで、ビューイングを毎年恒例的に開催しているイベントってありますか。以前、イオンモールで開催しているところに出くわしたような気がしたんですけど。

○事務局 パブリックビューイングをやるっていったら、アイスホッケーのオリンピックですとか、昔は、駒大苫小牧が甲子園に出場した際とかはありましたけど。

○森座長 やったときの人気とか、いかがでしたか。

○事務局 でも、あそこの白鳥アリーナで組んでやって、あれは結構、お客さんが来て、それはオリンピックだったので、盛り上がるは盛り上がるかなというのはありましたけどね。

○森座長 広場的なところ、このまちなかでやるときに、パブリックビューイングというのがどれほど日本人に定着するのか分からないですけども、それもちょっと実験的にやってみてもいいかな。

僕すごく、今まで好きだったシーンの一つにメルボルン市内にある広場があるんですけども、ふだんはそんなに人がいないんですけど、テニスの全豪オープンの際にびっしり人が入って、常設の大きいモニターでそこでみんな日焼けをしながら全豪オープンを見たいなのがあるんですよ。ちょっと文化的に違うのかもしれないんですけども、いい景色だなと思いがらすごくよかった感触があるんですけども、皆さん、温かい家の

中でテレビ見るほうがいいのかもしいないですけども、寒いときにわざわざ外で見ましようみたいなイベントがあってもいいのかなとか思ったりしたんですよ。ちょっとした思いつきの話です。これは思いつきのレベルが一つです。

ウォーキングの話、僕自身、全く健康志向じゃないタイプなので、健康のために歩けないんですけども、やっぱりそういう人間からすると、例えばウォーキングちょっと参加したら、札幌でやっているお店の例えば出店であるとか、キッチンカーみたいなものがちょっと割安で食べられるとか、そういうきっかけがあると先ほどの子供のお菓子もそうですけれども、何か健康志向じゃない方々がまちに出てくるネタというか、仕掛けというのはすごく大事だなと思いました。

あと、最後1点、ルートの話ですけども、これも参考的な話ですけども、関西のほうの、例えば私の地元の近くだと千里ニュータウンって日本のニュータウンの一番初期の一番大きいニュータウンがあるんですけども、関西は大阪府や京都府にニュータウンがたくさんあって。大分前から言われているように一斉に高齢化がしている中で民間事業者さんのバスルートがこの15年、20年、25年で変わってきてるんですよ。住民の多くがサラリーマンの頃といえますか、40歳代ぐらいの人たちがまだ頑張って働いていたときのニーズとしてのバスのルートが通勤の手段とリタイアした後の活動の際に欲しいバスのルートというのが変わってきているので、今まではショッピングセンター行きだとか駅行きだったバスルートが、地区を巡回するバスのほうに変わってきているというのがあるんですよ。この人数調査されているとは思いますが、やはり時代とともに、あるいはエリアとともに、この必要とされるカバーしたいルートというのが違って来たりする。民間事業者さんは民間さんの収益のことあるとは思いますが、何か実はこっちをこうやってくれたほうがいいのかというルートを開拓していけるといいんじゃないかなと。

その話を聞いたときに、ああ、それはそうだなと。結局は通勤しなくて、マージャンしに行くだとか、そういうことに行く方向に今までルートがなかったのが、民間がそっち回してくれたので、みんな払って乗るとか、あと自治体の補助でほぼほぼただで乗れるという形で回っていく。そういうようなことも考えているので、それも将来的な課題かなと。これは自動運転じゃなくて、もっと広域の話です。そういうところを思った次第です。

そのほか、皆様はいかがでしょうか。冒頭のコンセプトプランについてのほうを踏まえてでも結構ですが。多分、次が最後になるんですかね。第5回、あと何回ありますか。

○事務局 一応、予定はそういう予定ですが。

○森座長 ですね。これをベースに、またちょっとブラッシュアップしたものが次回になってくると思いますので、先ほどのステップで行きますと、今、ステップ3に来ているので、ステップ4のところを目指した話になってくると思います。

今日、そのほかにご意見があればぜひ出していただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○事務局 磯貝委員から、一つ、またありますので、ご紹介させていただきます。

○森座長 はい、お願いします。

○事務局 一つ、エリアプラットフォームというところで、磯貝委員自身もいろいろなイベント、特にハロウィンイベントなんかは実行委員会を組織して引っ張っている側なので、重要性を認識されているんだと思いますけれども、一日も早く取り組んだほうがいいというご意見です。ただ、スタートは少数から徐々に拡大していくというやり方がいいのではないかというご意見。

それから、自動運転バスについては大賛成というご意見でした。歩きやすい町並みの形成というところとの相性が抜群によいというご感想です。

ただ、そのほかの実証事業につきましては、単発ではなくて将来像がイメージできた段階で、しっかりと歩いてもらうための仕組みづくりとして、今後のプラスアルファのコンテンツとして考えていくべきだというようなご意見をいただいております。以上です。

○森座長 ありがとうございます。私はハロウィンになじみがない。自分の子供たちは、もうハロウィン、ハロウィンって言っていますけど、苫小牧でハロウィンのイベントやっていますか。

○事務局 駅の南北をつなぐような形で、南側は旧バスターミナルで、キッチンカーですとか少しステージを組んだようなイベントと、北側にMEGAドン・キホーテがあって、そこを会場にして、両方からパレードをして、駅の改札で一旦集合して、最後、北側のMEGAドンキでお菓子を配って終わりというのですとかの内容で複合的に1日。もともと総合経済高校の学生の発案で、それを大人が実現しようという企画の中で、今年、コロナがあったので久々の開催だったんですけど、そういったイベントをやっております。

○森座長 それ、主催は。

○事務局 主催は磯貝委員を中心とした実行委員会を組んで、いろいろな各分野の方が一堂に集まって実施というような形態です。

○森座長 それでは、事務局にお返しいたします。

○事務局 事務局からですけども、次回委員会ですけども、11月29日を予定しております。皆様、ぜひご出席をよろしく願いいたします。

お時間となりました。以上をもちまして苫小牧駅周辺ビジョン策定検討委員会第4回を閉会させていただきます。皆様、本日はどうもありがとうございました。